

挑む!

「京都みなみ会館」館長

吉田 由利香さん(28)

映画館 若者も振り向かせたい



自宅やスマホで気軽に映画が観賞できる時代。館長として、いかに映画館まで足を運んでもらうかに知恵を絞る。

京都みなみ会館は、1964年に封切館として開業した。90年代にミニシアターとして生まれ変わり、オールナイト上映などで映画ファンを集めた。だが、2010年に入社したころは、活気は失われていた。その2年後、「スタッフの中で一番若い」との理由で新たに館長に選ばれた。

京都市出身。京都造形芸大を卒業後、創作の道に進むつもりだったが、京都みなみ会館に就職。24歳で館長になった。

「同世代を呼び込みたい」と決意し、オールナイト上映を復活させた。

「映画館は大画面で大音響が楽しめる。クラブの夜遊び感覚で来てほしい」。来館者数が徐々に増えてきた。

とくに、旧作映画にこだわりを持つ。だが、劇場公開から一定の時間が経つと権利が切れ、上映できない良質な洋画も少なくない。「だったら上映権を自分で買えばいい」。業界では異例だったが、今年、故デビッド・ボウイ主演の「地球に落ちた男」(1976年)の権利を買って上映し、話題を呼んだ。

1年かけて毎月ウルトラマンシリーズを上映中。今月中旬は、SF映画をオールナイトでみせる。「京都みなみ会館に行けば、何か面白い映画に出会えると思うていただけたら」

文・写真 伊藤恵里奈

記者から

吉田さん一押し、今上映中のSFコメディ「不思議惑星キン・ザ・ザ」(86年)が気になる。